海外がん医療情報リファレンス by JAMT
NEWS LETTER

JAMT
Japan Association of Medical Translation for Cancer
日本癌医療翻訳アソシエイツ
https://jamt-cancer.org/

2021.4 - 2022.3　Vol.13

一般社団法人日本癌医療翻訳アソシエイツ　〒163-1030東京都新宿区西新宿３-７-１　新宿パークタワーN30階　https://jamt-cancer.org/　TEL 03-5326-3432

米国がん対策法50周年

Vol.13
2021.04-2022.03

1.ごあいさつ……P1
2.「海外がん医療情報リファレンス」
活動報告……P2
3.がんセミナー・字幕翻訳勉強会……P4
4.監修者から……P6
川上正敬先生
峯野知子先生
田原梨絵先生
5.翻訳者から……P8
白濱紀子さん
松長愛美さん
山本哲靖さん
6.副理事長より……P9
7.スタッフから……P10
8.事務局からのお知らせ……P12
9.組織概要
10.協賛企業

1.ごあいさつ

新型コロナ感染症（COVID-19）の発生から２年が過ぎました。オミクロン株による感染者が急激に増加し、収束の見通しは未だに立ちませんが、この間、COVID-19病態の解明、有効なワクチン、治療薬の開発が急速に進みました。

JAMTにおいても野中副理事長を中心に多くの活動を継続しています。海外のがん医療情報の提供、がんセミナー、字幕翻訳勉強会、患者会、他団体への協力など、皆さまのご協力のおかげで多くの社会貢献が可能になっていることを嬉しく思っています。

がんの分子生物学、免疫機構の解明が進み、診療の場のみならず、日常生活への介入ががん治療効果の向上へつながることが期待されます。本年もJAMTへのご支援のほど、何卒よろしくお願いいたします。

一般社団法人日本癌医療翻訳アソシエイツ
理事長 久保田 馨

2.『海外がん医療情報リファレンス』活動報告

2021年 4月	国際脳腫瘍ネットワークIBTA(International Brain Tumor Alliance)e-Newsを毎月和訳、日本脳腫瘍ネットワーク(JBTA)に提供開始
6月	(18日「国際胃癌教育シンポジウム」に希望の会が参加)
7月	『海外がん医療情報リファレンス』サイトトップページ、一部リニューアル
8月	(「日本癌治療学会PAL10年史」発行される)
9月	JAMT動画配信「MDアンダーソンがんセンターのご紹介」 (24、25日IKCCの世界患者サミットへ日本の腎がん患者会avecが参加)
10月	24日 JAMTがんセミナー開催 講師:田中文啓先生(呼吸器外科/産業医科大学 第二外科) 講師:尾崎由記範先生(腫瘍内科・乳腺/がん研究会有明病院 乳腺センター 乳腺内科) 23日 第59回日本癌治療学会患者連携PAL企画シンポジウムにてJAMT野中氏がASCO参加報告を発表
11月	28日 字幕翻訳勉強会開催　講師:寺田真由美先生/JAMT字幕指導　映像翻訳者 (29日IKCCアジア患者カンファレンス)
12月	『海外がん医療情報リファレンス』サイトトップページ、一部改修
2022年 2月	JAMT動画配信「本当に化学療法は必要ですか?OncotypeDx保険承認に向けて」前編・後編
3月	日本癌医療翻訳アソシエイツ　2021年度第1回総会　第2回理事会開催

「海外がん医療情報リファレンス」主な英文記事の発信元

- ●米国国立がん研究所(NCI)- NCI ニュース、ファクトシート、薬剤情報(A-Z)
- ●FDA ニュース - 新薬承認と安全性報告
- ●学会ニュース - 米国臨床腫瘍学会(ASCO)、欧州臨床腫瘍学会(ESMO)、米国がん学会(AACR)のプレスリリース
- ●大学/施設ニュース- MDアンダーソンがんセンター、ジョンズホプキンス、ダナファーバーがん研究所
- ●英国医療サービス(NHS)、キャンサーリサーチ U.K
- ●ロイターヘルス
- ●Cancer.Net(ASCO患者サイト)

学会参加報告(オンライン参加)

■第18回日本臨床腫瘍学会学術集会・PAPプログラム【2月18~21日】各3名以上
■第80回日本癌学会学術総会・SSPプログラム【9月30~10月2日】各1名以上
■第29回日本乳癌学会学術総会【7月1~3日】2名以上 寺田真由美氏、患者セミナーに一部登壇
■第59回日本癌治療学会学術集会・PALプログラム【10月21~23日】各4名以上
■第62回日本肺癌学会学術集会【11月26~28日】1名以上
■第31回日本乳癌検診学会学術総会【11月26~27日】1名以上
■American Association of Cancer Research(AACR)2021　Week 1: April 10-15; Week 2: May 17-21 1名以上

日本癌治療学会患者連携PAL企画シンポジウムにてJAMT野中氏がASCO参加報告を発表。

参加者から

10月21日から3日間、日本癌治療学会のPALプログラムにオンライン参加しました。今回は「患者・市民の医学研究・臨床試験への参画」の促進を焦点としたプログラムでした。患者・市民が正しい医療情報へアクセスする必要性が増しているのに日本ではそれが難しいという講演もあり、JAMTが医療情報の発信側として果たす役割は大きいと感じました。

学会本体では、野中副理事長から2019年のASCO派遣報告があり、活気あふれる米国の学会の様子が紹介されました。また光免疫療法をはじめとして最新の低侵襲な診断・治療法の一端に触れることができました。

(日本癌治療学会PALプログラム参加　粟木瑞穂)

＊

2021年会(AACR)年次総会に参加する機会を頂きました。KRAS/p53変異型 膵がんに対する新たな戦略を示唆する記事翻訳をお手伝いする際に、発表をリアルタイムで聞けたので、臨場感を持って取り組むことができました。

＊

AACR GENIEプロジェクト(ゲノム・臨床データ共有ネットワーク)からの、早期発症結腸直腸癌における人種による遺伝的特徴などを含むユースケース、記事翻訳もされた個別化がんワクチン、リアルワールドデータに関する発表なども興味深かったです。患者アドボケートとして参加の機会を下さった、JAMTの皆様に感謝しております。

＊

(AACR 2021患者アドボケート参加　為石万里子)

患者会・他団体への協力

■IBTA（国際脳腫瘍ネットワーク）月刊 e-News 日本語版を JBTA（日本脳腫瘍ネットワーク）に提供

IBTA（国際脳腫瘍ネットワーク）の毎月発行 e-News 和訳を、今年も年間通して JBTA（日本脳腫瘍ネットワーク）に提供しました。JBTA ウェブサイトにも掲載。
担当スタッフ：伊藤彰
翻訳者：渡邊岳、会津麻美、坂下美保子、日ノ下満里、為石万里子
監修協力：夏目敦至先生（名古屋大学未来社会創造機構・特任教授　河村病院・脳神経外科・部長）

■胃癌患者のための「国際胃癌教育シンポジウム」にて希望の会代表への通訳・翻訳協力

特定 NPO 法人「希望の会」が国際胃癌学会、アジアの患者団体による国際胃癌教育シンポジウム」に参加しました。英訳のサポート（粟木瑞穂）、ならびに当日の同時通訳を提供しました。
韓国癌学会＆米国 Debbie's Dream Foundation 主催、後援は、韓国胃癌学会（KGCA）、中国抗癌協会（CACA）、日本胃癌学会（JGCA）でした。
日本／米国／韓国／中国の医療者および患者さんがそれぞれの立場から自国の治療の状況について意見交換しました。

■IKCC Global Kidney Cancer Summit 参加協力（9 月 24、25 日）

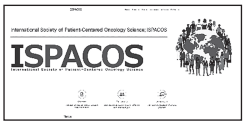
世界腎がん連合（IKCC）の世界患者サミット（オンライン）に日本の腎がん患者会 avec から患者さん 2 名＋1 名が参加され、JAMT から野中氏が同席しました。世界の腎がん患者向けの有益なセッションが設けられました。また、11 月には、アジアの患者団体にフォーカスしたラウンドテーブル会議が開催され、同様に参加しました。

■「A really practical Handbook of Children's Palliative Care for Doctors and Nurses」（子どもの緩和ケア～世界の医師・看護師のための実例集）の翻訳協力

認定 NPO 法人横浜こどもホスピスプロジェクト「A really practical Handbook of Children's Palliative Care for Doctors and Nurses」（子どもの緩和ケア～世界の医師・看護師のための実例集）の翻訳協力をしました。
子ども緩和ケアに携わる医療者の教育セミナーで使用される予定です。その他、翻訳協力。
翻訳協力者：粟木瑞穂、串間貴絵、佐々木亜衣子、武内優子
吉松由貴先生、他

■ISPACOS（患者にやさしいがん医療サイエンス）サイト一部英訳（7 月）

「International Society of Patient-Centered Oncology Science; ISPACOS」サイト（英語版）の一部英訳をしました。
翻訳者：会津真美、春日京子、他

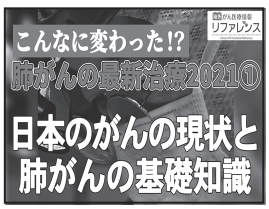


■コクラン翻訳協力

エビデンスに基づく医療を推進するプロジェクト「コクラン共同計画」のコクランジャパン翻訳協力に参加しています。今年も 27 本のレビューを提供いたしました。

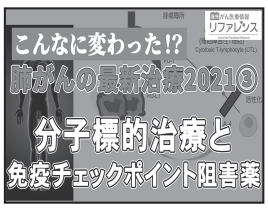
JAMT オリジナル動画配信スタート

全米 No.1 MD アンダーソンがんセンターの紹介 ／Dr. 上野直人



肺がんの最新治療 2021　①肺がんの分類と治療法

肺がんの最新治療 2021　②早期がんに対する低侵襲治療：ロボット手術



肺がんの最新治療 2021　③分子標的治療と免疫チェックポイント阻害薬 2

本当に化学療法は必要ですか？ OncotypeDx 保険承認に向けて（公開予定）

2021年度はJAMT制作による動画が配信開始となりました。今年は『MDアンダーソンがんセンターの紹介（上野先生）』、『肺がんの最新治療 2021（田中先生）』、『OncotypeDx 保険承認に向けて（尾崎先生）』の 3 シリーズが制作されました。

JAMT 動画が一番大事にしているのは、患者さんにとってわかりやすい動画にすることです。動画が完成するまで数名のスタッフが関わっていますが、言葉の印象、挿入のタイミング、ぱっと見たときのわかりやすさ・・・など、さまざまな要素を全員で考え、良い動画になるように工夫を凝らしています。

機会がありましたら感想などいただけますと、とても嬉しく思います。今後も患者さんに役に立つような動画作りを目指したいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

（動画担当スタッフ　平沢沙枝）

3.がんセミナー・字幕翻訳勉強会

がんセミナー【肺がん・乳がんの最新治療】
10月24日(日)13：30〜15：40【オンライン開催】

肺がんの最新治療２０２１
①肺がんの分類と治療
②「早期がんに対する低侵襲治療の進歩
：主にロボット手術」
③「進行肺がんに対する薬物治療の進歩
：標的治療と免疫療法」

田中文啓先生
呼吸器外科／産業医科大学 第二外科

「本当に化学療法は必要ですか？
OncotypeDx保険承認に向けて」

尾崎由記範先生
腫瘍内科・乳腺／がん研究会有明病院 乳腺センター 乳腺内科

恒例のJAMTがんセミナーが、昨年に続きオンラインで開催されました。近年大きく進歩したがん治療において代表的な肺がんと乳がんの治療について、JAMT監修者の田中文啓先生と、尾崎由記範先生にご講義いただきました。それぞれ東理事、佐復理事の進行により活発な議論も交わされ熱意の伝わるセミナーとなりました。ご参加くださった吉松由貴先生にもご挨拶いただきました。

【懇親会】には田中先生、尾崎先生も引き続きご参加くださり、セミナーに関するボランティア翻訳者の質問に回答いただきました。免疫チェックポイントの新たな標的として最も有望なTIGIT（p11注目のキーワード参照）や、乳がんにおけるKi-67の位置づけなど、セミナー以外でも貴重な質問がありました。先生方からJAMTボランティアへ温かい言葉やエールをいただき、ボランティア翻訳者のみなさんには励みになったという感想もいただきました。

久保田理事長

野中副理事長

東理事

佐復理事

田中先生ご講義内容

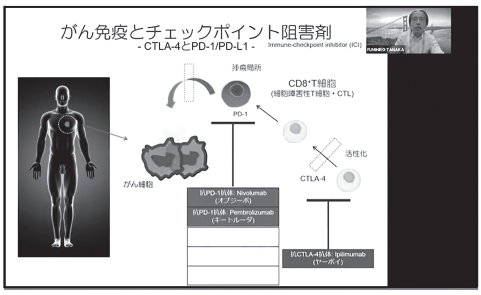
＜内容＞
日本人のがん死亡原因
肺がん治療の進歩は著しい

“早期”肺がんに対する低侵襲治療の進歩
　—内視鏡（胸腔鏡）手術
　　ロボット支援による内視鏡手術
　—縮小手術（区域切除）
　　ロボット支援胸腔鏡手術による区域切除

“進行”肺がんに対する薬物療法の進歩
　ドライバー変異とキナーゼ阻害剤

　　—KRAS遺伝子変異とソトラシブ
　　—EGFR遺伝子変異
　がん免疫とチェックポイント阻害剤

　　—CTLA-4とPD-1/PD-L1
　最近の治療の流れ



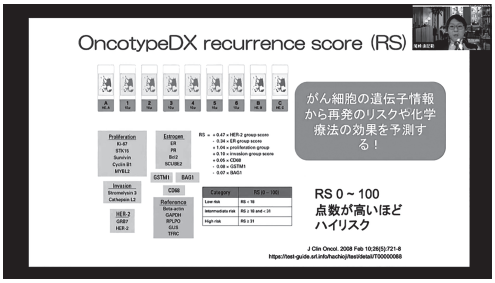
田中文啓先生からは、包括的な肺がん治療についてのご講義を賜りました。肺がんの罹患状況や分類から、標準的かつ最新の外科治療と薬物治療について画像を含め、詳しくお話しいただきました。主に前立腺がんで利用されていたロボット手術が、難しい肺がん領域の手術においても、現在では日本の多くの地域、病院で行われているとのことです。手振れなく、0.1㎜単位の正確な血管剥離をほぼ出血無しで可能にする様子を映像と共に解説いただきました。

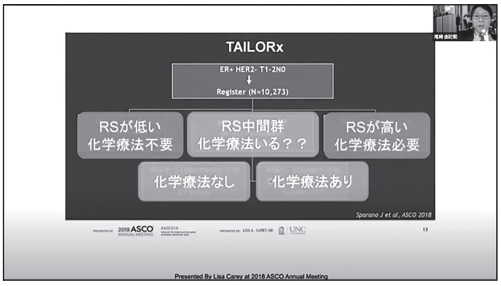
また、肺がんの薬物療法では、免疫チェックポイント阻害薬が効果を上げ、最も大きく治療の進展がみられたこと、その後も免疫チェックポイントや、肺がんの遺伝子変異を標的とした薬剤が多く開発されていることが理解できました。質疑応答にも大変わかりやすくご回答いただきました。

尾崎先生ご講義内容

＜内容＞
乳がんのサブタイプと治療法
ー本当に化学療法は必要？
ーOncotype DXとは
Oncotype DXありなしで臨床判断はどのくらい変わるか？
　＊イタリアの試験、アメリカのデータ
　＊がん研有明でのOncotype DXの実施件数

近年のトピックス
ー閉経前の患者さんに必要なのは
　化学療法か？卵巣機能抑制か？
　＊TAILORx試験
　＊MINDACT試験
ートリプルネガティブ乳がんの標準的術前化学療法が変わる
ーctDNAを用いた微小残存病変の検出（シグナテラ）





乳がん腫瘍内科の尾崎先生からは「早期乳がん、化学療法が必要か」というご講義を賜りました。

幸い、ステージⅡ‐Ⅲの早期であってもホルモン療法だけでよいか、化学療法も必要かは患者さんにとっても医療者にとっても明確な答えのない大きな問題でした。そのようななかで、オンコタイプDX(OncotypeDX)という遺伝子診断検査が登場し、3年前の米国臨床腫瘍学会（ASCO）では、一部のリスク中程度の方には化学療法が不要であるとの結果が発表されました。

ようやく日本でもオンコタイプDXが承認され、近く利用可能になります。一方で、リスク評価の議論は単純ではなく、さらに深堀した研究が進められているとのことでした。またトリプルネガティブ乳がんでも標準的術前化学療法を変えるctDNA検査の解説もいただきました。

JAMT字幕翻訳勉強会

日 時：11月28日（日）9:00～11:00
講 師：寺田真由美先生／JAMT字幕指導 映像翻訳者

今回の受講者はJAMTボランティア翻訳者９名、および監修者の松本恒先生にご参加いただきました。参加者から事前に提出いただいた字幕翻訳を実際の映像にあてはめて、全員で確認し、おひとりずつに寺田先生より的確な講評をいただきました。最終的な字幕翻訳がどのような判断と過程を経て得られるのか、実況中継を見ているような楽しさがある講義内容で、松本先生からは医学監修の視点からアドバイスをいただき、より充実した勉強会となりました。

課題の「時間の贈り物ーがん対策法50周年」は参加メンバーの字幕翻訳、松本先生の監修でサイトに公開されています。字幕翻訳勉強会は例年開催しています。『海外がん医療情報リファレンス』NCI動画は字幕翻訳勉強会への参加が必須になっていますので、未受講の方ならびに字幕翻訳技能の向上のためにぜひご参加ください。今年度も14本公開できました。

≪参加者より≫この度、数年ぶりに字幕勉強会に参加しました。字幕作成には特有のプロセスや難しさがあり、また、コロナ禍以降は関連の仕事が増えていたのも参加の動機でした。

今回は医学監修の先生からお言葉をいただく時間もあり、一層有意義な勉強会になりました。題材は、米国の「がん対策法」成立から50年を記念した短編動画で、ソフトの使い方よりも字幕にフォーカスした内容でした。事前課題として12枚分の字幕を作成し、当日に動画上で一人ずつ講評をいただいたのですが、様々な訳がありとても参考になりました。

字幕翻訳では、字数制限や、映像・音声、画面の切り替わり等も考慮しなくてはならず、通常の翻訳とは大きく異なります。

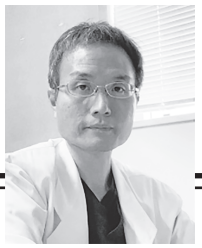
JAMTでは字幕の先生がやってくださっていますが、文の区切りを決める「箱切り」という作業も、読みやすさを左右する重要な部分です。分かってはいても、実際によい字幕をつくっていくのは至難の業です。

勉強会では参加者の字幕の良い部分を集め、さらに改善しながら一つの字幕に仕上げていくプロセスも見せていただきました。字幕が一層いきいきとしたものになっていく様子はやはりさすがでした。最終的にはセンスが必要なようにも感じます。

JAMTの活動に関わりはや8年、今後もよい訳文をお届けできるよう努めてまいります。　（宮武 洋子）

4.監修者から

がん診療に携わる者として



東京大学医学部附属病院　呼吸器内科　川上正敬 先生

2018年から監修者としてお世話になっております。その当時は米国のMDアンダーソンがんセンターで肺がんの研究をしておりましたが、何かの調べ物の際に偶然JAMTのホームページを拝見し、その趣旨に共感を覚え、それ以来、監修者として活動に参加させていただいております。

もともと、臨床医として、特に全人的なアプローチが必要であるがんの臨床にやりがいを感じ、呼吸器内科で肺がんの診療に携わっておりました。
その後、大学院からは肺がんの基礎研究に注力し、大学院卒業後すぐに米国に渡り、ダートマス大学、そしてMDアンダーソンがんセンターで研究を続けておりました。

その間、がんゲノム時代の本格的な幕開けや免疫チェックポイント阻害薬の登場など、がん研究及びそれによるがん臨床の発展は目覚ましいものがあり、それはもちろん喜ばしいことではありますが、がんを専門とする私ですらその情報のスピードについていくのは大変で、ましてや医療従事者でもない患者さん達がこの圧倒的な情報をきちんと消化できているか甚だ疑問を感じるようになりました。がん診療に限った話ではありませんが、特にインターネット上では、そのまま信用すると患者さんの不利益になってしまうような誤った情報もあふれています。

そんな中、エビデンスのある海外の最先端の情報をタイムリーに、かつ正確に伝えるJAMTの活動を知り、感銘を覚えると同時に、英語の問題がなく、なおかつがん研究に身を置く自分であれば、この活動に少しでも何らかの貢献ができるのではと思い、冒頭で述べたように2018年からお世話になっている次第です。なお、私自身はその後、MDアンダーソンがんセンターから米国国立がん研究所に移り、基礎研究への注力を続けておりましたが、現在は帰国し、東大病院にて臨床と研究の両立を模索しております。

今後もがんの情報はさらに加速度的に増えていくことが予想され、JAMTの活動は益々重要になってくるかと思います。そのような活動にこれからも少しでも携わることができれば幸いに思います。今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

がんの構成割合と抗がん剤の変遷

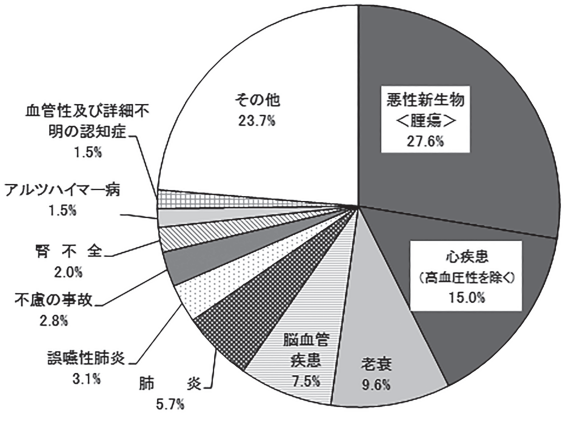
高崎健康福祉大学薬学部教授　峯野知子 先生

このほど厚生労働省より、「令和2年人口動態統計」が公表された。日本人の事象を集計したものとして例年公表される。概要として、出生数は84万835人となっており、前年の86万5239人に対して2万4404人の減少である。また1899年の人口動態調査開始以来、最少の出生数である。一方、死亡数は137万2755人であり、前年の138万1093人に比べ8338人減少し、11年ぶりの減少となった。

一目瞭然であるが、死亡数は出生数の2倍を超えている。主な死因の構成割合の第1位は、悪性新生物〈腫瘍〉37万8356人であり、構成割合（死亡総数に占める割合）は27.6%となっている。つまり約4人に1人が、がんで死亡したことを示す。がんでの死亡は1981年以降、長年にわたり連続して第1位であり、第2位の心疾患（高血圧性を除く）の20万5518人（構成割合15.0%）に比べても圧倒的に多い。

図5　主な死因の構成割合（令和2年(2020)）

＜出典：厚生労働省＞



化学療法とは「抗がん剤」投与による治療であり、殺細胞性薬剤、ホルモン剤、分子標的治療薬、がん免疫療法薬に大別される。ナイトロジェンマスタードは最も古い抗がん剤であり、第二次世界大戦における化学兵器マスタードガスより開発された。

DNAをアルキル化する為、アルキル化剤とよばれる。1960年代には、フルオロウラシルに代表される代謝拮抗剤が用いられるようになった。DNA構成成分に類似した化学構造により、DNA合成を阻害して抗がん作用を示す。1990年代になると、微小管阻害剤に分類されるパクリタキセルの臨床使用が始まった。細胞分裂の過程を停止させて、がん細胞を死滅させる。しかしながら、以上の様な殺細胞性抗がん剤は正常細胞に対しても殺細胞ダメージを与える為、副作用の問題が大きい。

よって近年では、がんに特徴的な分子をターゲットとした分子標的治療薬での治療に移行しつつある。代表的な分子標的治療薬として、白血病治療薬のイマチニブや乳がん治療薬のトラスツズマブがある。更に、2018年にノーベル賞を受賞された本庶佑先生の研究による免疫チェックポイント阻害薬ニボルマブなど、がん免疫療法薬も大変注目されている。免疫力でがんを抑える為これまでの、がんを直接攻撃する抗がん剤とは全く異なる。がんが増え続ける中、学術・臨床分野における抗がん剤に関する有用な知見は、今後も数多く見出されると期待される。

YouTubeを用いた乳がんの情報発信

乳腺科医 田原梨絵 先生

皆様、いつもお世話になっております。私は家族で渡米して今年で7年目、現在はアメリカ東海岸のボストンという野球のレッドソックス、食べ物はロブスターが有名な地方都市に住んでいます。

ボストンはハーバード大学やMITなど世界的にも有名な大学がある学術都市としても有名であり、日本からも主に研究留学のためにたくさんの医師が滞在しています。コロナ禍でボストン全体がシャットダウン状態となった2020年春、4人の日本人乳腺科医がボストンに住んでいました。研究室へも行くことができず各自が自宅の部屋で過ごす日々の中で、乳がんの情報発信をしようという話になり、動画で乳がんの正しい情報を発信する一般社団法人「乳がん大事典　BC Tube」（Breast Cancer YouTube）が誕生しました。

最初はボストンにいる4人で議論を重ねながら手探り状態でパワーポイントスライドを作成し、慣れない音声を自分達で入力し、非営利のYouTubeチャンネルに投稿を開始しました。少しずつ再生回数が増え、チャンネル登録者数も増えていきました。そして、日本にいる乳腺科医の先生方が賛同して参入してくださり、乳腺科医以外の先生方とのコラボレーションも生まれ、学会発表、医療施設での動画利用など当初は想像もしていなかったように活動が広がり始めました。

BC Tubeの活動を始めてみて、情報発信の影響力の大きさをしみじみ痛感しています。間違った医療情報が氾濫する中、患者さんを守るため、そして乳がん啓発のためにも、正しい情報をいかにわかりやすく発信するかは、当然ですが医師として責任を持って行う必要があります。BC Tubeの動画は多いもので数万回数再生され、これらは、日常の臨床で外来で患者さんに直接説明したり、講演会などで聴講していただける人数と比較にならない数です。影響力が大きい分、チームで活動し、複数の専門家の目を通した動画というものが価値があると思います。この点は、JAMTでの活動と通じるものがあり、正しい情報を発信するにはチームワークが大切であると改めて認識しております。

BC Tubeではこれから、動画配信を継続すると共に、病院クリニックや検診施設への普及、ブレストアウェアネスを含めたがん教育など、さらに活動の幅を広げていく予定です。まだBC Tubeの動画をみたことがない方は是非YouTubeで「乳がん大事典」あるいは「BC Tube」と検索して見てもらえたら嬉しいです。

まだまだ続くコロナ禍で、患者さんが簡単にアクセス可能な信頼できる情報源の有用性はますます増していくと思われます。JAMTでの翻訳監修として皆様と一緒にお仕事をさせていただけますこと大変光栄に思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

5. 翻訳者から

がん看護の経験を思い出させてくれたJAMTとの出会い

ボランティア翻訳者 白濱紀子

1年半程前より、アメリカのハワイ島の片田舎からJAMTの翻訳ボランティア活動に参加させていただいております。

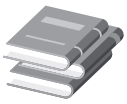
ハワイ島は自然豊かではありますが、専門医の診察や大きな手術を受ける場合はオアフ島の医療機関に行かなければならないことも多く、私にとっては医療の地域差を感じる場所でもあります。そのような場所に住みながらもJAMTの活動を通してがん治療の最新情報に触れることができ、大変嬉しく思います。

日本に住んでいた頃は看護師として10年ほど働いていました。病棟勤務時はがん治療を受ける患者さんに、在宅訪問看護ではターミナル期のがん患者さんに関わることがありました。ハワイに引っ越してからは医療とは無関係の仕事についていましたが、看護師の経験を活かそうと思いメディカル翻訳の通信講座を受け始めたころに「海外がん医療情報リファレンス」のウェブサイトを見つけ、JAMTの活動を知りました。ウェブサイトで記事を読みながら最新情報が満載であることに大変驚きながらも、忘れかけていたがん看護の経験を思い出すことができました。

看護師として働いていなくとも、がん患者さんやそのご家族の方々に情報をお伝えするというお手伝いができると考えると、JAMTの翻訳作業は大変やりがいがあると感じます。実際の翻訳作業では、校正や監修でご指導いただけるので大変勉強になります。他の翻訳者の方々の文章も素晴らしく、いつも参考にしています。セミナーや勉強会も充実していて、日本で開かれるがんセミナーや字幕翻訳勉強会などにオンラインで参加し、楽しく学ばせていただいています。

まだまだ翻訳者としては未熟ではありますが、知識と経験を積み重ねながら活動参加を続けてまいりたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

上質な翻訳記事をお届けする



ボランティア翻訳者 松長愛美

平成16年から1年間の留学期間を除きボランティア翻訳者として参加をしています。メーカーで技術翻訳をしていましたが、異動で翻訳業務から外れて落ち込んでいた時に掲示板で野中さんが掲載したボランティア翻訳者の募集を見つけたことが参加のきっかけです。翻訳という自分の得意分野を活かして人の役に立つことができればと思いつつ、無理に背伸びをすることなく、自分のできる範囲で活動している点が長く続いている理由だと考えています。

海外癌医療情報リファレンスのウェブサイトも数回のリニューアルを遂げながらサイトの中身が充実しているので、サイトの質に比例するよう私自身も自分の翻訳の質を向上させないといけないなあと感じています。

現在翻訳で使用しているDeepLをはじめ翻訳ツールの質も向上し、外国語が苦手な人でも海外の情報を読めるようになりました。しかし、その翻訳が完璧とは限りません。一見きちんと訳出されている文章も注意深く見ると間違っている場合もあり、その言語に熟知している人でないと気がつかないこともあります。

私自身、乳がん検診で要精査の結果を受け取った時に初めて、いちユーザーとしてサイトを閲覧しました。サイトの翻訳記事は、監修の先生方や事務局とスタッフの皆さんによる二重三重のチェックを経て掲載される精度の高い翻訳記事であると自信を持っているため安心して読むことができました。

翻訳ツールと異なり、私たちは記事を読むがんと闘う人たちを念頭に置いて記事を翻訳することができます。今後も記事を読む人は誰なのか、サイトを利用する人は誰なのかを第一に考えて翻訳し、JAMTの活動の一助となれるよう頑張ります。監修の先生方、事務局とスタッフの皆さん、来年度もどうぞよろしくお願いします。

NCI動画

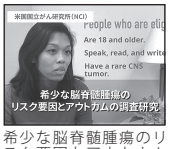
EDEN試験ー食事と運動が免疫療法と腸内細菌に与える影響

時間の贈り物ーがん対策法50周年

精巣がん ～知っていますか？～

CAR-T細胞を作れ！がん免疫治療を加速化

がん研究とデータ科学との調和



希少な脳脊髄腫瘍のリスク要因とアウトカムの調査研究

脳脊髄腫瘍の免疫療法の臨床試験

脳脊髄腫瘍の自然史研究

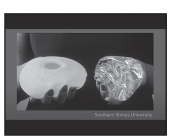
小児がん患者の家族を支える

小児がん治療で考えるべきこと

小児がんの子どもを支える

子どもの治療中の情報管理

子どもがんと診断されたら


乳房インプラントについて知っておくべき7つのこと(FDA)

治療が変わる瞬間に感じること

ボランティア翻訳者 山本哲靖

テレビで新型コロナ感染者数を毎日報道するようになったのはいつからでしょうか。流行株はデルタ株からオミクロン株に切り替わり、皆様のご心労をお察し申し上げます。

私は2019年に翻訳者としてJAMTに入会させていただき、すぐコロナ禍に突入しました。現在は木村様と一緒にFDAニュース記事を担当させていただいております。日々、監修の先生方、翻訳者の皆様、スタッフの皆様にご指導いただき大変感謝申し上げます。

この1年を思い返すと、免疫チェックポイント阻害薬が多くのがん種に適応追加されましたが、私にとって大きく関心のある低分子医薬品のFDA承認／非承認ニュースについてご紹介させていただきます。

一つ目は、RAS阻害薬ソトラシブが承認されたニュースです。ご監修いただいた田中健太郎先生も「次世代シーケンサーの普及でKrasG12C変異は予想以上に日本人でも認められ承認が待たれます」と関心をお示しでした。それまでアプローチ出来なかったRas遺伝子変異を分子標的治療することができるようになり、治療が変わる瞬間に気付きました。

二つ目は、FDAが腎性貧血治療薬のHIF活性化薬（=HIF-PHD阻害薬）Roxadustatを安全性の問題から非承認とした直後に、腎臓がん等のVHL病にHIF阻害薬のBelzutifanを承認したことです。RoxadustatはHIF-2α等を活性化する一方、BelzutifanはHIF-2αを阻害する薬剤で両剤は逆の作用を示しています。新薬の主作用・副作用のバランスについても考えさせられるニュースでした。

コロナ禍でも新薬承認がとどまることがなかったのは、がんと戦う患者様の為に世界中の医師、研究者、専門家の先生方が新治療について奮闘なさっているからであり、私はそのニュースをお伝えできることに感謝とやりがいを感じています。これからも患者様のお役に立てる翻訳とニュース記事の作成に邁進してまいります。

6.副理事長より

アフターコロナへの期待を胸に

副理事長　野中　希

この冬、全国的に寒さが厳しいです。パンデミックも2年目、感染者数は一時ピークに達したものの、年末にかけて驚くほど減少しました。久しぶりに帰省をしたり家族や友人と会えたり、ひととき明るさが戻ったのではないでしょうか。今年も献身的に従事してこられた医療従事者の方々に感謝と敬意を述べますとともに、コロナで影響を受けられた皆様にお見舞い申し上げます。

今年度も一年、ボランティア翻訳に協力いただいた皆様、そしてサイトをご愛顧賜りました皆様に深く感謝申し上げます。『海外がん医療情報リファレンス』サイトでは、今年も約300記事を配信できました。コロナ初年度、減っていたがん関連ニュースも、今年度は少しずつ戻ってきたように感じます。エビデンスに基づく医療を提唱するコクランレビューへの翻訳協力も継続しています。

動画では、米国国立がん研究所（NCI）動画14本を配信しました。日本のがん対策基本法は2006年（15年前）制定で記憶に新しいですが、米国では、2021年は米国がん対策法制定50周年という感慨深い年でした。記念動画も配信されています。ご覧ください。

NCI動画に加え、JAMTがんセミナー2講義の動画、そしてMDアンダーソン紹介動画を制作し、Youtube配信を開始しました。肺がんの講義は、ニュースになることがほとんどない外科手術についての動画で、日本でもすでにここまで精度の高いロボット手術が全国的に利用されつつあることに大変驚きました。乳がんでは待望の遺伝子パネル検査がようやく日本で利用可能となります。いずれも患者さん方に是非見ていただきたい有益な内容ですので、何度も視聴頂いたり、ご紹介頂けましたら幸甚です。

国際的な患者支援組織と日本の患者会とをつなぐ活動として、脳腫瘍、胃がん、腎がん、白血病（CLL）、小児がんなどの患者会関連への協力をさせていただきました。コロナ禍のため、海外の患者支援団体とオンライン会議の機会が増えて通訳の需要も増えました。また医学学会では発表の多くが英語で行われる傾向のようです。国内外のがん患者、医療者の皆様と連携を取りながら、その時々の変化に対応し、ニーズに応えられればと思います。

AIやテクノロジーの進歩は、様々な分野で世界を変え始めています。翻訳においても自動翻訳が普及してきました。ウェブ上では、これまで日本の患者が見ることができなかった英語の情報ソースを、日本語ページと変わりなく閲覧することもできます。かなりの精度で医学情報も読めます。「言語の障壁」もその意味では克服される日が近いことでしょう。

AI翻訳になっても、信頼性の高い医療情報には必ず人の眼で確認と管理、そして専門家の監修が必要です。『海外がん医療情報リファレンス』でも数年前から、AI翻訳文に編集を行う手順（ポストエディット）を推奨しています。単語や文字の変換を、一瞬で処理できる機械に任せることで、読み手や状況を鑑み文章表現に注力できるーこれまで以上に向上が見込めるチャンスかもしれません。

今年こそは、アフターコロナが現実となり、社会生活と日常生活ともに明るさと人とのふれあいが戻ってくることを祈念しています。これからも、ご協力とご支援をよろしくお願い申し上げます。

7.スタッフから（順不同）

FDAニュース担当：山本哲靖
今年度より木村様とFDAニュースをご担当させていただけることになりました山本です。FDA承認は月によって承認医薬品数に波があり翻訳スタッフ様が不足してしまうことや、週末に承認されることも多々ありました。皆様のご協力に大変感謝申し上げます。

医療ニュース担当：山田登志子
今年度もオンライン開催のおかげでJAMTがんセミナーに参加することができました。先生方の講義がありがたいのはもちろんですが、ほかの翻訳者のみなさんの知識や理解度の深さに感服し、大いに刺激を受けました。ありがとうございました。

学会ニュース担当：青山真佐枝
翻訳がうまくなりたい、社会と関わりたいという思いからJAMTに入会しました。スタッフとしては数年目となりますが、JAMTの活動を通して多くを学び、力をいただいているのは私自身だと感じています。スタッフや翻訳者の方々、監修の先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。本年度もどうぞよろしくお願いいたします。

大学ニュース担当：福原真吾
昨年度より担当させて頂いております。翻訳者の皆様、監修の先生方、スタッフの皆様、全員のご尽力と熱意が合わさってJAMTができているということをヒシヒシと感じます。ご協力・ご指導いつもありがとうございます。今後ともよろしくお願いいたします。

NCI記事担当：林さやか
皆様、いつも大変お世話になっております。早いものでスタッフとしてNCI記事を担当して7年ほど経ちます。まだまだ至らぬ点が多々あり皆様に支えていただきながら、担当させていただいております。いつもありがとうございます。

NCI薬剤情報担当：張知子
今年度も薬剤情報の翻訳にご協力いただきありがとうございました。薬剤情報ではNCIのがん治療薬のサイトを翻訳して適応症などの情報を提供しています。JAMTの活動を通じて少しでも皆様のお役に立つことができれば幸いです。今後ともよろしくお願いいたします。

動画担当：平沢沙枝
2020年4月から動画担当になりました。海外ドラマが好きで、もともと字幕にとても興味があり、毎回楽しく作業をしています。動画翻訳にチャレンジしたい！と言う人が増えたら嬉しいです。今後ともよろしくお願いいたします。

コクラン担当：佐治京子
本年もコロナウイルスのせいで制限が続き、昨年ほどではなくても、やはり気分的には晴れないように思います。コクランの新しい記事も一時は数が減りましたが、徐々に戻りつつあります。皆様のご協力に感謝しながら、明るい新年を願って、新年もがんばります。

コクラン担当：大澤朋子
翻訳者の皆さま、監修の先生方、お忙しい中ご協力を大変ありがとうございました。今年は監修の先生方や皆さまとオンラインを通じてお会いでき、とても良い刺激になりました。まだ対面は難しいですが、海外在住の方々ともお話しできるオンラインセミナー等を来年度も楽しみにしています。

外部協力担当：伊藤彰
2021年度は翻訳者ではなくスタッフとしてお仕事をさせていただきました。優秀な翻訳ボランティアの皆様と10月より監修をお引き受けくださった夏目敦至先生のおかげで、英国発信の脳腫瘍ニュースを毎月国内へ届けることができました。本当にありがとうございました。

翻訳者補助担当：佐藤美奈子
皆様、いつもご協力ありがとうございます。翻訳者補助担当としてお役に立てるよう頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

メルマガ（ダイジェスト）担当：重森玲子
がんリファやコクラン等のサイトに掲載された記事をメルマガとして配信しています。配信頻度は2週間ごとです。2021年度も、翻訳者の方々、監修の先生方、スタッフの方々皆さまのおかげでたくさんの記事を無事配信することができました。本当にありがとうございました！＆来年度もどうぞよろしくお願いいたします！

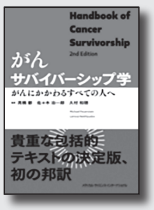
SNS担当：白石里香
日本癌医療翻訳アソシエイツ（JAMT）アカウントのFacebookとTwitterで週1回投稿しています。セミナーや勉強会などの活動報告や、多くの方が関心を寄せてくださりそうながんリファの記事をご紹介しています。ぜひ「フォロー」と「いいね！」をよろし願いいたします。

タイトルチェック：野中希、佐々木真理

事務局スタッフ
運営統括／野中 希
事 務 局／川見 佐知
会　　計／鳥居 美映子
収益部門 翻訳マネージャー／
鳥居塚 千恵

書籍紹介

■「がんサバイバーシップ学～がんにかかわるすべてのひとへ」が出版されました



2020年に高橋都先生（NPO法人日本がんサバイバーシップネットワーク代表理事）らのもと、下訳の翻訳をさせていただいた「Handbook of Cancer Survivorship がんサバイバーシップ学～がんにかかわるすべてのひとへ」が2022年1月末に出版されました。
がん治療がほぼ一段落したあとの長期的な生活についてまとめた、医療者向け教科書です。

（MEDSi株式会社 メディカル・サイエンス・インターナショナル）
（下訳：栗木瑞穂、生田亜衣子、春日京子、河合加奈、佐治京子、佐復純子、鈴木久美子、高橋明美、為石万里子、仲里芳子、宮武洋子、山田登志子、吉田加奈子）

■「日本癌治療学会PAL10年史」が発行されました

日本癌治療学会における患者支援者（アドボケート）のためのプログラム開始から10年を記念して2021年7月「日本癌治療学会PAL10年史」が発行されました。
JAMT野中氏はじめ、会員の方々のポスター発表が多く掲載されています。

〈ポスター発表：野中希、佐復純子、栗木瑞穂、寺田真由美〉
〈ポスター発表：吉田加奈子〉
〈ASCO参加報告発表：野中希〉

■ FDA承認ニュース ■

2021年1月	FDAが小児と若年成人の再発／難治性未分化大細胞型リンパ腫にクリゾチニブを承認
	FDAがHER2陽性胃腺がんにトラスツズマブ デルクステカンを承認
	FDAが腎細胞がんにニボルマブ＋カボザンチニブを承認
2月	FDAが転移非小細胞肺がんにテポチニブを迅速承認
	FDAが辺縁帯／濾胞性リンパ腫にウムブラリシブを承認
	FDAが局所進行／転移基底細胞がんにセミプリマブを承認
	FDAが肺がん治療による骨髄抑制の軽減にトリラシクリブを承認
	FDAが再発・難治性大細胞型B細胞リンパ腫にlisocabtagene maraleucelを承認
3月	FDAが非小細胞肺がんにセミプリマブを承認
	FDAが再発／難治性多発性骨髄腫にメルファランを承認
	FDAが再発／難治性濾胞性リンパ腫にアキシカブタゲン シロルユーセルを承認
	FDAが再発／難治性進行腎細胞がんにチボザニブを承認
	FDAが食道／胃食道接合部がんにペムブロリズマブを承認
4月	FDAが多発性骨髄腫に初のCAR-T細胞療法薬としてidecabtagene vicleucelを承認
	FDAが多発性骨髄腫にイサツキシマブを含む3剤併用療法を承認
	FDAが大腸がんと頭頸部扁平上皮がんにセツキシマブの隔週投与を承認
	FDAが進行尿路上皮がんにsacituzumab govitecanを迅速承認
	FDAが大細胞型B細胞リンパ腫にloncastuximab tesirineを承認
	FDAがMMR機能欠損がある子宮内膜がんにdostarlimabを承認
	FDAが進行または転移性の胃がん、胃食道接合部がんおよび食道腺がんにニボ＋化学療法を承認
5月	FDAがHER2陽性胃がんと胃食道接合部がんにペムブロ＋トラスツズマブ＋化学療法を承認
	FDAが切除後の食道がん、胃食道接合部がんにニボルマブを承認
	FDAがEGFRエクソン20挿入変異を有する進行／転移非小細胞肺がんにアミバンタマブを承認
6月	FDAがFGFR2融合遺伝子陽性切除不能胆管がんにインフィグラチニブを承認
	FDAが進行非小細胞肺がんにKRAS G12C阻害薬ソトラシブを承認
7月	FDAが白血病とリンパ腫にアスパラギナーゼエルウィニアクリサンチミーを承認
	FDAが局所進行／転移性尿路上皮がんにエンホルツマブベドチンを承認
	FDAが多発性骨髄腫にダラツムマブとヒアルロニダーゼの合剤を他剤併用で承認
8月	FDAがハイリスク早期トリネガ乳がんの術前／術後補助療法にペムブロリズマブを承認
	FDAがVHL病に伴う腎細胞がん、神経血管芽腫、膵神経内分泌腫瘍にHIF阻害薬belzutifanを承認
	FDAがMMR機能欠損がある固形がんにdostarlimabを迅速承認
	FDAが進行または転移胆管がんにイボシデニブを承認
	FDAが尿路上皮がんの術後療法にニボルマブを承認
9月	FDAが原発性マクログロブリン血症（WM）にザヌブルチニブを承認
	FDAがEGFRエクソン20挿入変異陽性進行肺がん（NSCLC）にモボセルチニブを承認
	FDAが12歳以上の分化型甲状腺がんにカボザンチニブを承認
	再発／転移子宮頸がんにチソツマブ ベドチンを迅速承認
10月	FDAが再発／難治性B細胞前駆体ALLにbrexucabtagene autoleucelを承認
	FDAが早期乳がんにアベマシクリブとホルモン療法の併用を承認
11月	FDAがT315I変異Ph陽性慢性骨髄性白血病にアシミニブを承認
12月	FDAが初の白血病（BCP-ALL）CAR-T細胞療法としてbrexucabtagene autoleucelを承認
	FDAが悪性血管周囲類上皮細胞腫瘍（PEComa）にアルブミン懸濁型シロリムス粒子製剤を承認
	FDAが小児・青年期患者のリンパ腫・白血病にリツキシマブ併用化学療法を承認
	FDAが多発性骨髄腫にダラツムマブ合剤＋カルフィルゾミブ＋Dex多剤併用療法を承認

■注目のキーワード■ ～いくつ知っていますか～

hypofractionated radiotherapy	寡分割照射法。 通常分割照射と比較して1回線量を増やし、照射回数を少なくした照射法。
Investigator(s)とprincipal investigator（PI）	investigatorは、研究者または治験（試験）分担医師。 PI（principal investigator）は、主任研究者、研究代表者または治験（試験）責任医師。 （者/医師、治験/試験は文意に応じる） ※「治験責任医師（昔は治験総括医師）」は、各試験実施医療機関の責任者。
TIGIT（T-cell immunoreceptor with immunoglobulin and ITIM domains）	PD-1、CTLA-4に続き、治療標的となる可能性が高い新たな免疫チェックポイント（受容体）の一つ。 TIGITの阻害は細胞傷害性T細胞を増強する。
OncotypeDX（オンコタイプ DX 乳がん再発スコアプログラム）	OncotypeDXは、ホルモン受容体陽性、HER2陰性の早期浸潤性乳がん患者の腫瘍組織における21の遺伝子のRNA発現量に基づき再発スコア等を出力する解析プログラム。 Multi-gene panel testing「多遺伝子パネル検査」（複数の遺伝子のセットを一度に調べられる検査方法）の一つ。

8.事務局からのお知らせ

(事務局　office@jamt-cancer.org)

●2021年会計報告(1月～12月)はJAMTオフィシャルサイトへ3月中に掲載予定です。
●コロナによる緊急事態宣言等により、在宅勤務を中心としています。ご不便をおかけすることもございますが、何卒ご理解いただけますようよろしくお願いいたします。

2022年度継続年会費 お手続きのお願い

次年度は2022年4月1日から2023年3月31日となります。
JAMTオフィシャルサイト「JAMTを支援する」➡「会員登録と寄付」より会員資格をご確認いただき、
2022年3月25日までに会費をお振込みください。
＊退会・休会をご希望の場合は、その旨必ずメールで事務局までご連絡をお願いします。
引き続き、みなさまのお力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

年会費	■ボランティア翻訳者(賛助会員)：継続年会費 4,000 円(がん患者ご本人は半額)	
	■個人正会員　：年会費10,000円 ■個人賛助会員：年会費 5,000円	■法人正会員：年会費 100,000円 ■法人賛助会員：年会費 30,000円
振込先	ゆうちょ銀行からのお振込み [記号]10030 [番号]78505391 [名義]一般社団法人日本癌医療翻訳アソシエイツ	他金融機関からのお振込み [店名]〇〇八(読みゼロゼロハチ) [店番]008 [預金種目]普通預金 [名義]一般社団法人日本癌医療翻訳アソシエイツ [口座番号]7850539
その他	【クレジットカード決済】 JAMTサイトの「JAMTを支援する」➡「決済フォーム」もご利用ください。	

9.組織概要

名　　称	一般社団法人日本癌医療翻訳アソシエイツ
所 在 地	〒163-1030 東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワーN30階
連 絡 先	office@jamt-cancer.org
	TEL 03-5326-3432
設立年度	2009年4月1日
ボランティア翻訳所属メンバー (2022年1月現在)	ボランティア翻訳者：113 名　監修者：54 名
役　　員	理事長　久保田 馨　医師／日本医科大学付属病院 がん診療センター長 副理事長　野中 希　医療翻訳者 理　事　東　光久　医師／福島県立医科大学 白河総合診療アカデミー 白河厚生総合病院総合診療科 理　事　後藤 悌　医師／国立がん研究センター　呼吸器内科 理　事　佐復 純子　医療翻訳者 監　事　久賀田 郁子　著述業

運営サイト

◆ 海外がん医療情報リファレンス　https://www.cancerit.jp/
◆ JAMTオフィシャルサイト　https://jamt-cancer.org/

メルマガ登録

◆ 海外がん医療情報リファレンス・ダイジェスト(まぐまぐ！)
2週間ごとに配信

Twitter・Facebook

◆ 海外がん医療情報リファレンス
Twitter：cancer_ref　Facebook：cancerreference
◆ 日本癌医療翻訳アソシエイツ(JAMT)
Twitter：jamt_cancer　Facebook：jamtforcancer
「フォロー」と「いいね！」をお願いします

10.広告協賛企業(順不同)

「海外がん医療情報リファレンス」の運営支援をいただいた企業様に厚く御礼申し上げます。

第一三共株式会社
日本化薬株式会社
日本イーライリリー株式会社
大鵬薬品工業株式会社
中外製薬株式会社